



月報 岡崎の教育

10月号

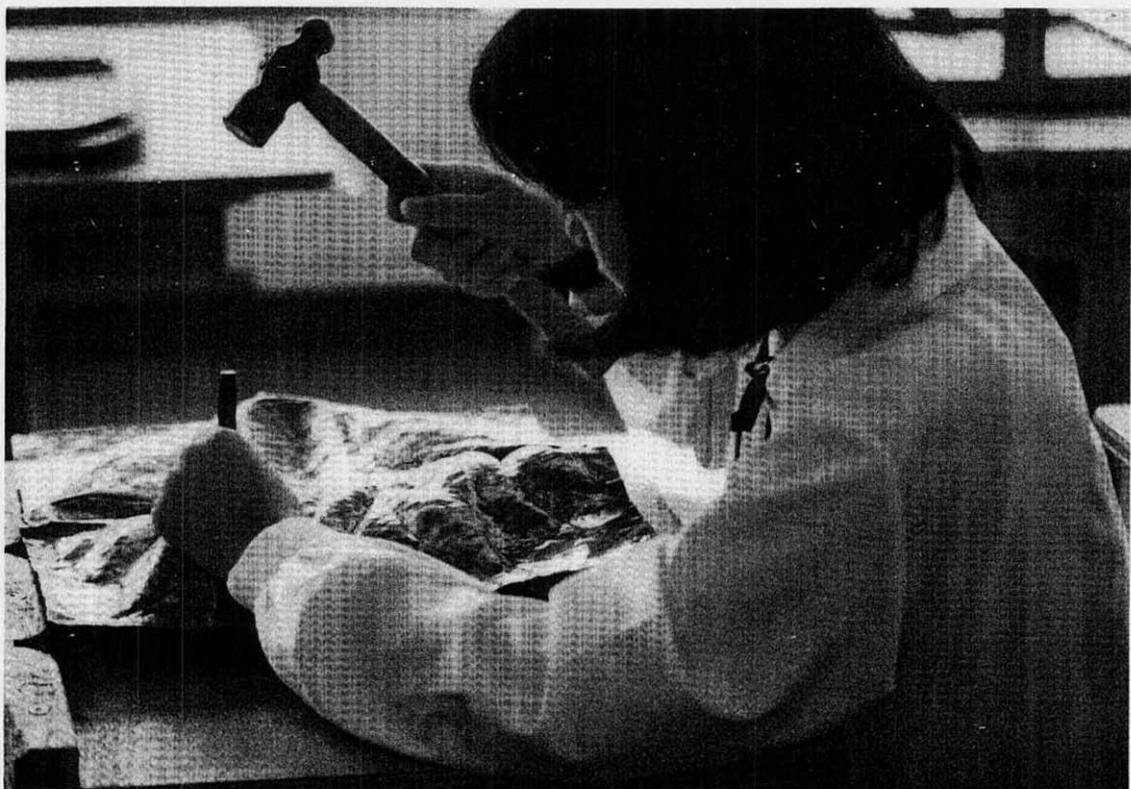
平成4年10月1日
発行/編集
岡崎市教育委員会

雑草が乾いた運動場の隅を這う
女の子が三人黙々と取ってはいるが
かたくなに地面に這いつくばって
優しい女の子の手に、取るのを許さない

突然一人の女の子が立ち上がった
水飲み場まで走って行って
バケツに水を入れ始めた
それに気づいた二人の女の子も
同じように走って行って水を汲んできた
その水をそっと運動場にまくと
また黙々と草を取り始めた
今度は体があちこちに動く
明るい笑い声がする

チャイムが鳴って
三人の女の子は走って帰っていった
そのあとに彼女らの足跡が
ポツカリと穴をあけて残っていた

〈草取り〉



(銅板に挑む - 甲山中)



遠い南の島から

愛知教育大学附属岡崎中学校長 浦野 隼臣

前略

南の島小笠原諸島、父島に来ています。今年には四年に一度の国際地質学会が京都で開催され、閉会后、各地へ地質見学旅行が行われています。小笠原もそのコースになっており、リーダーの一人として各国の研究者と今年もこの島へやって来ました。父島へは東京から約二十九時間の長い船旅で、台風の影響でうねりがあり、船酔いした人もありましたが全員無事到着しました。罫島の島影が見え始めた頃、船内に「左舷にイルカが見られます」と放送が流れました。甲板にいた人たちと左舷に行ってみますと、イルカは船と並んで泳いでおり、時々頭を出すのが見られます。「美しい海の色だ、私の国の海とは全く違う」ノルウェーから来たP教授が眩くように言いました。昨年の丁度今頃、彼の大学のある美し

い港町で見た北国の海の色と異なり、この海は明るく深い青緑色で、日差しによりその色を変えてゆきます。小笠原にはこのような美しい自然がまだまだ残されています。東京から南へ約千キロメートル、本土から遠く離れた亜熱帯のこの島には珍しい生物も多く、植物の半分近くが固有種とされています。父島の大部分を構成する岩石は無人岩という、マントルに直接由来する特異な火山岩で、私たちの研究対象であり、また今回の見学旅行の主な目的でもあります。

この時期に島を訪れるのは若い人が多く、サーフィン、ダイビング等自然の中の遊びを楽しんでいます。この島の自然は、国立公園として野外キャンプ禁止等の規制により厳しく守られています。毎年のようにこの島を訪れて十五年余になりますが、島の様子はずいぶん変わっ

て来ました。きれいな土産店や民宿が増え、立派なビクターセンターが建ち、道路も整備されてきました。

しかし、この島にはまだ飛行場が無く、東京から五〜七日毎の定期船だけが公共交通手段です。このため父島の北の兄島に飛行場を作る計画が進んでいます。島に住む人々や観光客にとって往来が便利になりますが、一方この建設が島の自然を破壊すると反対する人もいます。飛行機の便があれば若者のみならず色々な世代の人が容易に島を訪れることができようになりましょう。また反面、団体旅行等多くの観光客を迎えるため、いわゆる観光開発が進み、さらに自然が失われてゆくのではないかと危惧する声もあります。観光は重要な事業の一つにもなっており、このような自然の保存と開発の相克はここでも大きな難問を提起しています。いずれにせよ、この美しい自然を保存し、そのすばらしさを知るためには、まず自然を自らの目でよく観ることが大切であり、そのため少々不便なことがあってもそれを忍ぶ心と時間の余裕をもつことが必要でありましょう。

今日の行程はややハードで、二百メートル以上の急斜面を下り、木の枝につけられた標識を目印に上って行くコースもありましたが、皆汗を流しつつ元気に日程を終えました。台風が北上し始めたようので、帰りの船が少々心配です。ではまた。

草々
(うらの はやおみ)



教師の裏舞台

特別活動指導員

山本 信幸

指導員訪問等で年間五十回程度の授業と出会っている。その中に忘れられない授業がいくつもある。そのひとつが、指導案通りに展開されなかった授業、K先生の「聾学校との交流活動を計画しよう」である。

「聾学校の子にあいさつされ嬉しかった。でも、私はうつむいて小さな声でしかあいさつができなかった。いま思うと恥ずかしい」という生徒の日記が、K先生の心を動かした。障害を持つ同年代の考え方を知ることが、いま一度自分の生活環境を見直すことになると考えたK先生。事前打ち合わせのため聾学校へ。そこで、聾学校生徒M男の作文朗読とインタビューをビデオに撮る。

いよいよ授業。微笑みながら語りかけるK先生。その朗らかな語りかけが生徒の心を和らげる。そして、聾学校取材ビデオの放映。その放映が延々と続く。本時の学習課題を生徒に提示したのが、授

ふるさとシリーズ

この人に聞く



バレーボール

浅井 靖夫 氏

岡崎バレーボール協会の副会長である浅井靖夫先生のお宅を訪問した。

ママさんバレーの育ての親でもある先生は、高校のバレーボール指導において数々の輝かしい実績を取められてきた。

先生とバレーとの出会いをお聞きました。

「岡中で学徒動員として外で仕事をしていたのですが、終戦と共に学校に戻ったわけです。刈中でバレーの試合があったというのを聞き、有志で出ることにしたのですよ。ランニングシャツがユニホームでした。すぐ負けてしまっ

て悔やしかったですね。」

五年の時、岡高バレー部初代のキャプテンになられた。現在でも、岡高バレー部OB会の会長として、六百人の会員の中心となっておられる。

材木を買ってコートを作り、ネットを張って練習した当時が懐かしいと言われた。当時、岡崎女学校のバレー部の指導をしてみえた下村平八先生から教えを受けられ、基本を大切に、正確なパスを送る練習をすることがいかに大事かを、ここで学ばれたそうである。そして、昭和二十七年、岩津高校に赴任された。

「バレー部員を募集したら、女子が三人しか集まらなく試合に出られなかったのです。一年間基礎練習ばかりしていましたね。特に相手が女子であるので、率先垂範しなければついてこないというのをここで身につけました。二年目に、県三位になれてうれしかったですね。」

と、当時の思い出を語られた。

四年後、岡崎工業高校に転勤され、約十年間在籍された。その間、専門である社会科教育の指導に情熱を注がれる一方、バレー部の指導にも心血を注がれ、インターハイに七回、国体に五回出場という輝かしい実績を残された。

その頃は今と違い運動場での練習であったので、まずコートの草取り、石拾いから練習に入られたそうである。バレーを通して人間をつくりたいという願いを持っておられる先生は、挨拶、スリッパの整頓等のマナーの指導をとっても大切に

ていらつしやる。

「下村先生に教えられた誠実な練習を心がけ徹底的に教えました。体罰はしませんでした。体罰をしないというのは、手を示さなくてはいけないので大変です。ですから、自分の都合で練習をさぼったことは一度もなかったですね。」

と、指導のモットーを語られた。

一昨年刈谷北高校の校長職を退かれ、現在は、中京女子短大の事務局渉外課長としてお勤めである。大学のバレー部の部長として、時には学生たちと汗をかかれるとか。ますますお若い先生である。

氏 名 あさい やすお

生年月日 昭和五年五月四日

住 所 岡崎市福岡町字御坊山二十六



業開始から三十五分後。当然、授業は指導案の半分もいかに終わった。

授業分析という立場からすれば、完全に失敗の授業。生徒の活動があまりにも少ない。さらにビデオのM男が何を言っているのか分からない。それをなぜ延々と放映したのか疑問だった。展開が気になり時計を見つめていたのは、K先生ではなく私であった。

ところが、ビデオを見つめる生徒の瞳は輝き、真剣そのもの。静寂な教室と活動への意欲が高まってきた生徒たち、まさに「静と動」の関係である。

「M君は一生懸命伝えようとしていた。」
「口や目を見ていると、何が言いたいかわかった。」

という生徒の感想。時間の経過と共に私もビデオに釘付けとなった。K先生のM男への優しさや生徒への情熱が、ビデオから伝わってきた。

「指導案の時間を考え、ビデオ編集をしようと思いましたが、一生懸命なM男を見て、編集できなくなりました。」
と、K先生。

指導案通りに展開しない授業すべてが失敗とは言えない。指導案からだけでは分からないK先生の情熱が、その授業に存在していた。

推薦する専門書

「小中学校学習指導要領の解説と展開

Q&A 特別活動編」 教育出版

「心の住む学校を」

新城市立東郷中学校者

明治図書

岡崎のスポーツ少年団

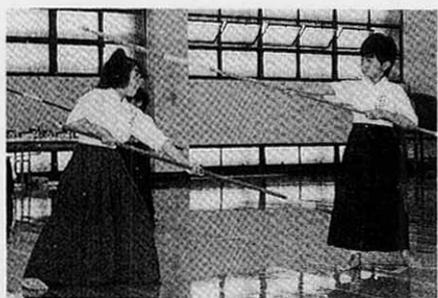


▲ラグビーフットボール タックルをものともせず突進する豆ラガーたち

以来、本市においても「市民総スポーツ」を標榜し、社会体育の振興に努めてきた。昭和三十九年に、初めてのスポーツ教室として剣道教室が誕生したが、正式に本市にスポーツ少年団が組織されたのは、昭和四十六年三月のことである。当時の加盟団体は二十、員数は千四百名であった。それが、平成三年現在では、二十三団体、千三百六十三人である。その間、指導者や施設の問題もあつて、団体数及び団員数に若干の増加はあつても、大きな変動はみられなかった。

昭和四十八年頃から地域スポーツ少年団が充実し始め、特に福岡地区や矢作地区において、多くのスポーツ少年団が結成された。その後も、上地区や大樹寺

スポーツ振興法（昭和三十六年制定）と東京オリンピック大会（昭和三十九年開催）は、社会体育を發展させる一大契機になった。



▲なぎなた

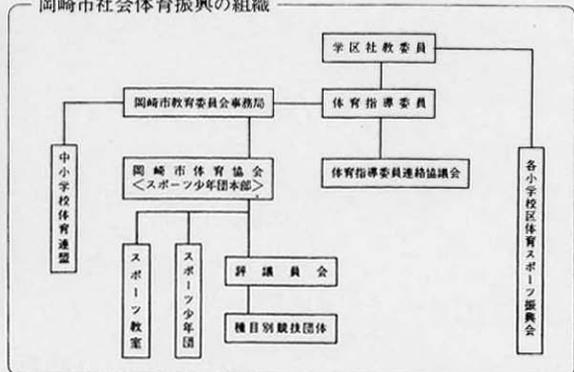
真剣に立ち向かう緊張の一瞬



▲サッカー

練習後のミーティング

岡崎市社会体育振興の組織



岡崎のスポーツ少年団の推移

(昭和45年度登録少年団)

番	団名	団員数
1	愛知県岡崎乗馬スポーツ少年団	20
2	岡崎子どもバスケットボール第1スポーツ少年団	250
3	岡崎子どもバスケットボール第2スポーツ少年団	
4	岡崎子どもバスケットボール第3スポーツ少年団	
5	岡崎子ども女子体操第1スポーツ少年団	100
6	岡崎子ども女子体操第2スポーツ少年団	
7	岡崎子ども女子体操第3スポーツ少年団	
8	岡崎少年空手道スポーツ少年団	40
9	岡崎少年剣道教室スポーツ少年団	50
10	岡崎市能見通1丁目スポーツ少年団	50
11	岡崎市松本町スポーツ少年団	150
12	岡崎市矢作スポーツ少年団	50
13	岡崎ラグビーフットボールスポーツ少年団	80
14	岡崎ラグビーフットボール第2スポーツ少年団	
15	岡崎ラグビーフットボール第3スポーツ少年団	
16	岡崎東サッカー少年団	250
17	岡崎西サッカー少年団	
18	岡崎南サッカー少年団	
19	岡崎北サッカー少年団	
20	岡崎中サッカー少年団	

(昭和54年度登録少年団)

番	団名	団員数
1	岡崎子ども体育教室末広会	88
2	岡崎子どもバスケットボール	111
3	岡崎乗馬	11
4	岡崎少年剣道	125
5	岡崎少女なぎなた	21
6	岡崎少年空手道	100
7	岡崎子どもバレーボール	51
8	岡崎ラグビーフットボール	43
9	岡崎子ども女子体操	127
10	岡崎福岡ラグビーフットボール	78
11	岡崎福岡サッカー	128
12	岡崎福岡剣道	51
13	岡崎福岡バレーボール	55
14	岡崎少年ソフト	142
15	岡崎福岡バドミントン	70
16	岡崎福岡バスケットボール	40
17	岡崎市矢作北	67
18	岡崎子どもバドミントン	30
19	岡崎西子どもサッカー	60
20	岡崎市松本町	36
21	岡崎市矢作北女子	30

(平成3年度登録少年団)

番	団名	団員数
1	岡崎子ども体育教室末広会	118
2	岡崎子どもバスケットボール	51
3	岡崎乗馬	21
4	岡崎少年剣道	85
5	岡崎少女なぎなた	15
6	岡崎少年空手道	163
7	岡崎子どもバレーボール	49
8	岡崎ラグビーフットボール	120
9	岡崎子ども女子体操	92
10	岡崎少年少女ソフトボール	37
11	岡崎福岡ラグビーフットボール	39
12	岡崎福岡サッカー	44
13	岡崎福岡剣道	10
14	岡崎福岡バレーボール	31
15	岡崎福岡バスケットボール	30
16	岡崎福岡バドミントン	21
17	岡崎矢作ラグビー	72
18	岡崎矢作バレーボール	47
19	岡崎西少年サッカー	137
20	上地サッカー	74
21	上地バレーボール	12
22	大樹寺バレーボール	32
23	岡崎福岡空手道	69

(資料提供 岡崎体協)

※スポーツ少年団の登録は、毎年更新される。

※スポーツ少年団には、必ず最低一人の「認定指導員」がいなければならない。



▲バレーボール

白球に精神を集中させて練習に励む

地区などでも結成されてきている。スポーツ少年団の目的は、「地域の子供たちに計画的・継続的な指導を進め、正しいスポーツ技術を習得させる」ことである。だが、少年団は、スポーツを通しての仲間づくりをも大きな目的とする。キャンプなど楽しい行事を取り入れたりしてそれぞれの少年団はいろいろと工夫した運営をしている。

また、スポーツ教室というのは、体育協会加盟団体が、少年層へのスポーツの普及を目指して開設したもので、年々増加の傾向にあり、現在では、野球・水泳・相撲・スケート・柔道・カヌー・アーチェリーなど二十五教室ある。

こうしたスポーツ活動は、学校体育や部活動と密接な関連を持ちながら、個性化教育・生涯教育を目指し、社会体育の底辺を支える役割を持つことになる。

▼剣道 気合いの入った基本形の練習



▲乗馬

人馬一体となって、さあ練習だ



咲いたグラジオラス

羽根小 嘉森 環

五月の連休を過ぎるころ、夜、K子から電話があった。「先生、学校でグラジオラスの球根を植えて育てていいですか。学校中のクラスに、育てて配りたいから。きれいだなと思って。」

一瞬、「何を言っているのだろう」と思った。が、よく話を聞くと、友達のU子と二人で、お金を出し合って球根を買い、それを学校で育てて、学校中に飾ってみたいという。育て上げるには、毎日、水をかけなければいけないし、鉢植えにするのも大変だろうが、ぜひやってみ

たいという意気込みが強かった。やるからには、途中でやめず、最後までやりぬくことを約束し、翌日、球根を学校へ持ってこさせた。

翌朝、K子、U子とともに、校務の先生に相談し、鉢への植え方、置くところなど教えていただく。あとは、K子とU子のがんばりの記録である。

鉢の数は、三十鉢。学校農園から土を運び、腐葉土と混ぜ合わせ、球根を植えた鉢が、ずらりと校舎の窓下にならんだ。これからの世話が大変だろうと、私自身は、内心、心配であった。毎朝、始業前、二人の水かけが始まった。保健委員長と副委員長をやっている二人なので、朝の委員会活動と重なる時は、とくに、時間の工面に苦労したらしい。そして、六月、芽が伸び始め、これで大丈夫だろうと思えた時は、ほっとした。

七月の初め。朝、学校に行くのと、グラジオラスの鉢が二つ、ロッカーの上に置いてあった。少しつぼみが出ていて、いつ開くのか楽しみであった。鉢の横には、じょうろも置いてあり、しっかりと咲かせようという、二人の気持ちが感じられた。「グラジオラスの花、本当にい

ただいいいのですか。」と、他の先生に聞かれて、二人が学校中の教室へ、鉢を運んでいったことがわかった。二人の活動は、全く自主的であった。七月の半ば、花が咲いた。二人のこれまでの継続した活動に心から拍手を送りたい。そして、このことが他の児童にも、きつとよい影響を与えるであろうと確信している。ありがとう。

ふれあい



茶摘み

西尾・寺津中 田口 康幸

今年も茶摘みの季節がきた。毎年、一学期も半ばになると西尾市では全中学校生徒が参加する茶摘みが行われる。勤労体験学習である。本校も三日間、朝から夕方まで摘む。生徒の摘んだ葉は抹茶となる。西尾の抹

茶生産量は全国の六十パーセントにも及び、全国一位である。茶摘みも三年目ともなると、生徒の心には「自分たちが西尾の抹茶を支えているんだ」という自負が生まれてくる。「最後の茶摘みだから、悔いのないように頑張るぞ。」

「今年は三の二が一位になるぞ。」と、生徒は茶摘みへの意欲を見せた。

第一日目、学級対抗一位を目ざして茶園に向かった。自分の背丈よりも高い茶畑の中に入り、黙々と茶を摘み始めた。まだ手の動きがおかしい。一時間もすると、茶を摘む音が軽やかになってきた。この調子だ。しばらくすると、あちこちからぼそぼそと話し声がする。「黙ってやれ。話をするな。」と激が飛ぶ。

昼の休憩をはさみ、夕方まで真剣に摘んだ。この日の収穫量は三十二名で三百二十キログラム。二日目に入った。

「昨日は、全校で一位だったぞ。」

「A男は十三キロでトップだ。個人優勝を目ざせ。」

よし、今日も頑張るぞと意気込んだが、昼からは息切れ。「腰が痛いよ。疲れたあ。」

この日の収穫量は二百九十六キ

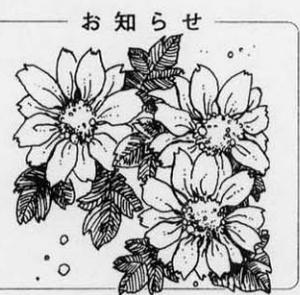


ログラム。結果は二位に後退。三日目。全員が一位を目指し黙々と茶を摘んだ。初夏の暑さの中でも休憩を惜しんでの作業だ。パシッ、パシッと茶を摘む音だけが響いてくる。終了時刻を過ぎても止めようとしなない。結果は何と四百四十三キログラム。誰からともなく、「ばんざーい。」

の声が上がった。自分の立てた目標を目指し、クラスのために頑張った。

「クラスは二位でしたが、このお茶摘みで労働の厳しき、頑張った後の喜びを味わうことができました。とても良い思い出ができました。」(M子の感想)

西尾の産業を生かした貴重な「茶摘み体験学習」だった。(広域派遣教員)



お知らせ

◆第六回小学校放送コンテスト
優良賞
井田小 六年 太田 浩代

◆子どもに主催・第二十七回
作文コンクール・高学年の部
最優秀賞
恵田小 五年 中根 俊治

◆第十四回東海中学校総合体育大会
優勝
相撲個人戦

◆全国中学校選抜体育大会出場
相撲
杉浦康徳(甲山中)

陸上男子三年百M
陸上男子八百M R
陸上男子八百M R

陸上男子八百M
陸上男子千五百M
陸上男子千五百M

陸上男子四百M
陸上男子四百M
陸上男子四百M

陸上男子走高跳
北浦 武(矢作中)
陸上女子走高跳

陸上女子二百M
陸上女子二百M
陸上女子四百M R

陸上女子一年百M
陸上女子一年百M
陸上女子四百M R

陸上女子走幅跳
鈴木智実(竜南中)
村山恵理(北中)

水泳男子四百MモデルR
南 中学校
水泳男子四百M R

葵 中学校
葵 中学校
葵 中学校

東海中学校
東海中学校
東海中学校

パレーボール女子
矢作北 中学校

◆第一回「さくら」コンテスト
絵画の部
審査員特別賞
三島小 三年 鈴木 大輔

このコンテストは、財団法人
日本さくらの会(桜内義雄会長)
が主催し、ことしから三月二十
七日を「さくらの日」と制定し

◆水泳競技・団体
(男子の部)
優勝 竜海中学校
二位 甲山中学校
三位 矢作北中学校

(女子の部)
優勝 矢作北中学校
二位 新香山中学校
三位 葵中学校

たことにちなんので実施されたも
のである。
絵画部門には、全国から五千
六百八十三点の応募があり、鈴
木君ら五人が審査員特別賞を受
賞する。

◆第三十二回愛知県合唱コンク
ール
銅賞 六ツ美北中学校
優良賞 竜南中学校

第二十五回岡崎市中学校新人総合体育大会

◆第十七回岡崎市小中学校児童
生徒統計グラフコンクール
市長賞
三島小 四年 山田 亮介
小林 真之
岩津中 三年 内田理恵子

市議会議長賞
福岡小 六年 太田 聖子
六ツ美中 二年 太田 幸伸
杉本 慎吾

教育委員会賞
上地小 五年 平沢 広大
中原 規之
山本 健悟
藤田 夕器
六ツ美中 一年 杉浦 仁美
山田 直枝

学校賞
三島小学校・岩津中学校

◆少年の主張愛知県大会
優秀賞
南中 三年 木下 京子

陸上男子走幅跳
梅林亮仁(竜海中)
岩月千佳(城北中)

相撲個人戦
矢作北 中学校

陸上女子走幅跳
梅林亮仁(竜海中)
岩月千佳(城北中)

☆印は新記録

◆水泳競技・個人

種目	氏名	校名	記録
男	50 m 自由型	山田 真二	葵 28"8
	100 m 自由型	宮野 洋輔	美川 1'02"6
	200 m 自由型	矢田 大七	葵 2'24"6
	100 m 平泳	大竹 巧	北 1'18"1
	100 m 背泳	榊原 吉伸	竜海 1'13"8
	100 m バタフライ	長坂 賢人	竜海 1'06"3
子	200 m 個人メドレー	高山 章	甲山 2'31"9
	400 m リレー	甲山	4'16"0
	400 m メドレーR	竜海	4'44"6
女	50 m 自由型	近藤 知恵	矢作北 30"1
	100 m 自由型	浦出 智子	矢作 1'04"1
	200 m 自由型	武田 恵子	矢作北 2'21"2
	100 m 平泳	一ノ瀬文絵	新香山 1'27"4
	100 m 背泳	山下 朋己	矢作北 1'17"5
	100 m バタフライ	児玉 宜子	新香山 ☆1'09"8
子	200 m 個人メドレー	矢嶋 直美	南 2'52"8
	400 m リレー	矢作北	☆4'28"3
	400 m メドレーR	新香山	5'10"2

泉



広幡小学校蔵

防空頭巾

太平洋戦争が激しくなり、日本の本土にまで戦禍が及ぶ昭和二十年に入ると、生活物資が手に入らないという切迫した状態に陥り、衣料品や食料品すべて配給制になった。

当時、国民学校に通い「少国民」と呼ばれた児童・生徒は、男女を問わず、写真のような座布団を二つ折にしたような物に紐をつけた防空頭巾をいつも携えていた。これは、爆撃時に破片などで頭を傷付けられるのを防ぐのが目的であった。さらには、空襲時に備え、男はゲート

ルを巻き、女はもんぺをはいて、水筒とズタ袋（雑糞）を肩にかけるといのが、普通の外出姿になっていた。

また、軍人ばかりでなく、一般の人々もジュラルミンや鉄製の兜を背負って、不時の空襲に備えるようになった。

平和を取り戻した今日では、こうした防空頭巾は、防災頭巾と名を変え、また鉄兜は、工事等の際の保安帽子とか自転車通学をする生徒の命を守るヘルメットとなって、今の時代に生かされている。

・表紙写真
・表紙詩
・カッター

甲山中
甲山中
甲山中

長坂正延
原博司
山田ゆかり



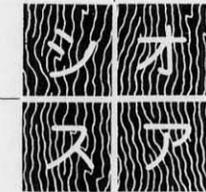
*詩を贈ろうとすることは	谷川俊太郎
集英社	¥1300
*春灯雑記	司馬遼太郎
朝日新聞社	¥1300
*二十一世紀への手紙	曾野 綾子
集英社	¥1300
*大事な話	森 毅
KKベストセラーズ	¥1000

※日本経済の構想 田中 直毅
日本経済新聞社 ¥1600

日本は世界最大の債権国となり、その動向が世界をリードする局面も出てきた。このように、経済において突出した力を持つ日本が、冷戦後の世界の中でどのような羅針盤を持つのか、内外の関心は急速に高まっている。

アメリカの経済力が転機を迎えている今日、今世紀最後の10年の国際社会の枠組みや協調体制をどのように構築していくのか。これは、日本に問われている最大の課題であろう。

オーストラリアの大地は果てしなく広い。バスで六時間走っても、見えるものといえば赤茶けた土と背丈の低い木ばかり。なんと雄大な国だろう。そこに住む人々の心も大地に負けないくらい広い。頼みごとをすれば、自分が忙しくても最後まで面倒を見てくれる。我々も広い心を持ちたいものだ。



「試合に勝っても、先生の顔の厳しさは消えない。練習の時はずっと厳しい顔。俺たちが卒業する時、先生の顔に優しさが見える。」岡崎工高バレー部卒業文集の一部である。浅井先生の毅然とした態度がうかがえる。先生の退職の日、午後十二時近く多くのバレー部員が家に駆け付けたという。

秋の星座、南天に台形をしていて見つけやすいベガサス座がある。この上方の一角から東へ弓形に伸びる星座がアンドロメダ座である。台形の東側の一边を北方へ延ばすとW形のカシオペア座がある。その端をさらに延長していくと北極星にとどく。星座物語を思い浮かべながら、秋の夜空を楽しみたい。

スポーツの秋である。「スポーツマンシップ」のつとり、正々堂々と、「……」などという宣誓の聲が、全国あちこちのグラウンドから聞こえてきそうである。しかし、オリンピックや夏の高校野球の連続敬遠の例を出すまでもなく、スポーツマンシップというのは意外に難しく厄介なものなのである。